

3
1993.5

薬友会報

千葉大学薬友会



旧校舎屋根飾り

—— 目 次 ——

薬友会会长就任にあたって	2	クラス通信	7
薬友会会长退任あいさつ	2	学生入学・就職状況	12
薬学に新しい風を(村瀬 誠)	3	生涯教育セミナーのお知らせ	13
退官にあたって	4	会員だより	14
留学生今日このごろ	4	薬友会のページ	15
研究室紹介	5	忘れ得ぬ思い出(藤井康男)	16
支部だより	6	村上先生を偲ぶ(吉田 醇)	16
教職員の異動	6	編集後記	16

(題字 廣瀬聖雄 元会長)

薬友会会長就任にあたって 山崎幹夫



このたび、薬学部長の大任を仰せつかり、あわせて薬友会会長をつとめさせていただくことになりました。千葉大学全体が大学改革の大波をいままさに乗りこえようとしているときであり、薬学部も大学院の発展、創薬生物資源教育研究センターの設立等を通して、創薬科学の教育研究、薬剤師教育の高度化への展開を試みようとしている重大な時機に、この大任をつとめさせていただくことにつきましては、緊張に身が引きしまる思いがいたします。

幸い、歴代の学部長、同窓会長、薬友会会長が本学部同窓会、薬友会の活動を通じて本学部の発展に盡された成果が、わが学部にはあります。私もこの成果をさらに大きなものにするために渾身の努力をいたす所存であります。非才の身を顧みるにつけ、薬友会の皆様の更なるご指導、ご鞭撻を願わざにいられません。

わが薬友会では、すでに薬友会報の発行を軌道に乗せ、生涯教育セミナーの開催を開始しておりますが、これらの事業は薬学部の教職員、在学生、同窓の皆様を固く結びつけ、これから尚一層の発展を推進する大きな原動力となるでしょう。私事になりますが、私自身、38年前に本学部の門を出てから今日に至った経過を顧みて、良き師、良き友から受けた恩恵のことを思わずにはいられません。いささかでもその恩に報いることができればと考えつつ、ごあいさつを申し上げた次第です。会員の皆様の変らぬご支援を重ねてお願いいたしますとともに、ご健康、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

薬友会会長退任あいさつ 渡辺和夫



2年間の任期を終えるに当たり、会員の皆様に謹んで御礼とご挨拶を申し上げます。

振り返ればあっという間の2年間でしたが、その間にも確実な時の流れがありました。何と申しましても偉大な先輩、赤堀四郎先生のご逝去は最大の痛恨事でありました。

会長就任時にご報告申し上げました大学改革の流れは今も続いており、大学全体が大きく揺れ動いていますが、これは大学が生まれ変わる産みの苦しみの時期と考えて努力しております。幸い、この間に本学部に関連し、いくつかの整備が行われました。全学共同利用施設としてアイソトープ研究センターの開設が認められ、薬学部からセンター長と専任助教授を出す事になりました。薬学部の近傍に3000m程の施設が建つ予定です。優秀な大型機器の購入も続いており、徐々にではありますが研究環境の整備も進んでおります。薬友会主催の第1回生涯教育セミナーも会員各位のご協力で大成功を収め、学内外に高く評価されております。これを通じて地元薬剤師会との連係も深められました。今年の第2回は東京での開催を決定しました。タイ、カナダとの国際交流も順調ですし、宮木高明先生の鳩子未亡人のご寄付を基金とする宮木高明奨学会の発足も特記事項です。その他、創薬生物資源教育研究センター、大学院整備、校舎の新築等の将来計画も立案し、実現に努力しております。

とにかくお蔭様で無事会長の任を終えることができました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げ、会員の皆様の益々のご健勝を祈りあげます。



薬学に新しい風を

東京都墨田区本所保健所
村瀬誠

1994年8月に東京都墨田区で雨水利用東京国際会議が開かれる。きっかけは、一昨年11月にジャパンタイムズに書いた私の雨水利用の論文であった。これを見た国際雨水資源化学会会長、ユーシー・ホーク、ハワイ大学教授が、墨田区に雨水利用国際会議の話を持ち掛けてきたのである。ユーシー教授が墨田区に白羽の矢を立てたのは、墨田区が、国技館に日本屈指の雨水利用を実現させたことがある。その背景には、私が中心となってまとめた墨田区への雨水利用の提案があった。墨田区がその提案を受けて、日本相撲協会に「国技館への雨水利用の導入」を申し入れ、実現にいたったのである。

当時は、相撲の営業許可に当たって、「両国地区の都市型洪水の防止」、「水道水の節約」、「防災用水の確保」という三つの課題を総合的にクリアしたいと思いつめ、そこで考えついたのが国技館の雨水利用であった。約8400平方メートルの大屋根に降った雨水を1000トンの地下の雨水タンクに貯めて都市型洪水を防ぎ、貯めた雨水で相撲興行時の水洗便所や冷房の水の約70%をまかない、いざという時には非常用の飲料水として活用しようというわけである。

もっとも、この構想は、当初から思いついたわけではない。従来の薬学の発想に限界を感じていた私は、10数年前から、部局も専門も異なる東京都・区の技術系の職員に呼び掛けで「ソーラーシステム研究グループ」なるものを組織し、ともに水やゴミなどの環境問題に取り組んできた。発想の原点は、この活動の中から生まれてきたのである。

公衆衛生行政の第一線にいてつくづく思うのだが、これから薬学出身者にもっとも求められるのは、先見性と創造性ではないか。「おとなしくて、まじめで、言われたことをそつなくこなせ、使いやすい」とは、薬剤師に対する社会の一般的な評価のようだ。これは見方を変えれば、「問題解決能力」はあっても、「問題提起能力」に欠けるということではないだろうか。もし、相撲の営業許可に当たって、ただ単に興行場の基準のチェックしかやっていなかったとしたら、国技館の雨水利用の発想なんて生まれなかつたに違いない。

ひるがえって今日の薬学教育はどうだろう。問題提起能力を養っているだろうか。また、社会とのかかわりにおいて、どんな教育目標を持っているのだろうか。数年前、ファルマシアの編集委員をしていたころ、「学校薬剤師の活動の座談会」の企画を提案したとき、ある国立大学の教授から「学校薬剤師ってなんですか」と聞かれて唖然としたことがある。これでは、薬学出身者の果たすべき社会的に指導的役割を学生にモチベートできるはずがなく、学生があまりにもかわいそうである。

かつて、宮木高明先生は、薬学概論において、薬学とは「薬の創製、生産、管理」であると定義された。しかし、地球環境問題を含めて薬剤師の活動が期待される現在、これでは余りに不十分であって、これから薬学は、「物質と健康に関わる総合科学」として、新たな構築をはかっていくべきではないだろうか。言い換えると、現場での優れた実践を集約し、それを科学として実らせ、「実践的薬学」へと脱皮をはかっていく必要がある。そこで提案だが、広く現場の薬学出身者を招き、学生、教官とともにこれから薬学を考える「社会薬学講座」を開いたらどうだろう。わが大学から薬学概論が絶えて久しいが、「科学する心」と「豊かな市民的完成」を兼ね備えた指導的な薬剤師をたくさん世に送り出すためにも是非検討していただきたい。その際には、わが同窓会も全面的にバックアップしたいものだ。

おりしも、今年の9月25、26日には、社会薬学研究会の総会が千葉県で開かれる。実行委員長は千葉大学薬学部の山崎教授である。ここでは、薬剤師による水源保全のための水質調査など現場での優れた活動が数多く発表されることになっている。わが薬学部に新風を吹き込むためにも、是非多くの参加を呼び掛けたいと思う。

(昭和49年卒業)

退官にあたつて



生物薬剤学研究室 鈴木徳治教授

薬学部に勤務してから早いもので、すでに20年を超えました。私の講義を聴（聞）く学生さんが、まだ生まれていなかったと思うようになった頃から、世代交替の時期を感じるようになりました。

1970年、仲井先生が新設の製剤工学講座に移られた後の薬剤学講座（名前だけ）を引きつぎました。1979年、この講座は医療薬剤学講座の生物薬剤学研究室に改称されました。この講座は薬学部固有の職能に大へん関係の深い教育と研究を行っております。しかも、この20年間にきわめて顕著な内容の変革と発展を遂げた領域です。このような時期に、この領域の仕事ができたことを大へん幸いであったと思っております。

一方、この時期における私達の薬学部の発展と拡張も目をみはるものでした。大学院薬学研究科博士課程の新設と3号館の建設、学部組織の拡大と4号館の建設など、大きな足跡がみられます。反面、講堂前の芝生とまわりの見事な桜がなくなったことが惜しまれます。これも時代の流れというものでしょう。

私の部屋（2号館4階）の窓からみると、眼下に百周年記念館の玄関があります。四季の移り変わりとともに、まわりの薬草園の景色と調和した眺望を楽しむことができます。あの年（1989）、百周年記念事業のなかで、式典・祝賀会委員長として、委員の皆さんと一緒になんとか記念式典と祝賀会を無事にやりとげたことを思い出します。これも同窓会の皆さんの御協力のおかげと感謝しております。

おわりに千葉大学薬学部の発展と薬友会の皆様の御健勝をお祈り致します。

留学生今日このごろ

国際化時代にふさわしく、平成5年1月現在で千葉大学薬学部に在籍している留学生の数は17名（大学院生10名、研究生7名）に上ります。その内訳は、男性が11名、女性が6名で、国別では中国8名、ブラジル3名、エジプト2名、バングラデシュ、チュニジア、ミャンマー、タイが各1名ずつ。所属研究室は活性構造化学が3名、薬品化学、薬化学、生薬学、薬品合成化学、薬物学は各2名、臨床化学、薬品分析化学、生化学、生物薬剤学が各1名となっており、留学生達はいずれも向学心に燃えて、研究に励んでいます。



薬学部では例年、留学生達の親睦のために1泊2日程度の研修旅行に出かけます。平成4年3月には、大学のスクールバスで三共株式会社の品川研究所と平塚製剤工場を訪問しました。最新式の分析機器や自動化された製剤工程に、一緒に行った日本人の大学院生や引率の教官と共に感嘆しきり。胃腸薬などの試供品をお土産にもらって、その日は富士山麓の山中湖畔に一泊しました。酒がはいって、隠し芸も飛び出し、夜のふけるまで楽しい一時を過ごしました。ところが、翌朝は部屋のカーテンを開けた途端、一面の銀世界。「帰りの道は大丈夫かしら」との引率者の心配をよそに、留学生達は珍しい雪に大はしゃぎ。すぐさま雪合戦です。春の名残の忘れ雪で、帰途に大した支障はなかったのですが、結局、富士の姿を最後まで見ず仕舞で、又の機会のお楽しみとなりました。

2日間、一緒に過ごしてみると、実に愉快な、気の置けない若者達であることが分かります。研究に勤しむと同時に留学生には多くの日本人と知り合って、お互いの理解を深め、悪い住宅事情、不景気や公害などの問題を抱えて、今の日本は決して住み易いとは言えませんが、元来は趣のある四季、自然との調和や思いやりの心など日本の良い所も分かってもらいたいものです。将来は祖国に帰り、各々の立場で立派な成果を挙げると共に、眞の日本を祖国に紹介し、さらなる国際化時代の担い手として、祖国と日本の間の架け橋になってくれる事でしょう。

研究室紹介

生化学研究室



生化学研究室（教室）は、薬学部の発足に伴い、昭和26年3月に済顕先生が千葉医科大学附属薬学専門部教授から薬学部教授に移られた時にはじまり、昭和46年3月に済先生が停年退官され、後任は、助教授の廣瀬が昇任になり今日に至っています。

この間、昭和36年に田中健太郎助教授（現山梨大学名誉教授）が山梨大学工学部へ、50年に小木曾健人助教授が北海道薬科大学教授に、59年に五十嵐一衛助教授（現本学部臨床化学教授）が旧生物活性研究所教授に、平成4年に熊谷宏講師が本学に新設されたアイソトープ総合センター助教授に栄転されました。また、星野英雄、隈部恒子（現姓那波）、宮本多恵子（現姓藤井）の諸氏に教務職員等として御尽力いただきました。現在の教務職員は、廣瀬と、懸川友人講師、石井伊都子助手の3名です。なお、平成4年3月20日に済顕先生が86歳で逝去されたことは、まことに悲しいことでありました。

当研究室で現在行なっている主な研究課題は次のとおりです。（1）細胞内でのリボソーム生成過程の一部として、リボソーム蛋白質遺伝子発現の調節機構を真核細胞を中心に研究しています。（2）粥状動脈硬化の発症に深く関与する泡沫細胞の形成機序を明らかにする目的で、マクロファージおよび血管平滑筋細胞の泡沫細胞化に伴うコレステロール代謝の調節機構を研究しています。（3）動物細胞におけるmRNAの分解機構を、キャップ分解酵素、各種リボヌクレアーゼ、リボヌクレアーゼ・インヒビター等による複合作用の面から研究しています。 （廣瀬聖雄）

薬物学研究室



薬物学教室は昭和29年、鶴上三郎先生（故人）が初代教授として赴任されて以来、博谷和男教授、北川晴雄教授（故人）を経て今日に至っている。研究テーマとしては、第一に、種々の薬物代謝酵素の生化学的、薬理学的、および毒性学的研究を展開している。中でも、過去15年以上継続しているエスチラーゼに関する研究業績は、多くの卒業生の成果として国内外で一定の評価を受けている。最近は、エスチル型またはアミド型プロドラッグの開発が盛んであり、これらの薬物の代謝では、肝臓、消化管、および血液などに存在するエスチラーゼが主役となることから、研究人口の少なかったエスチラーゼ研究が最近脚光をあびる様になった。さらに、これらの研究は、遺伝子工学を用いた分子生物学的研究に発展しつつある。次に、薬物の毒性に関する研究も当研究室の大きな柱である。新薬開発における安全性評価には多くの試験系が用いられているが、単純でその上短時間で薬物の毒性を把握出来る方法は少ない。当研究室では、温度感受性ポリマーを加えて肝臓の実質細胞および非実質細胞の混合培養系を確立し、肝細胞凝集塊（スフェロイド）を作成することに成功した。この系は従来用いられている毒性試験の代替法として極めて有用であり、今後、さらに改良することにより毒性試験のみならず薬理試験にもその応用が開かれる可能性がある。上記の研究課題に向かって、スタッフ、学生が全員で薬物学研究室の発展のために日夜邁進している。 （佐藤哲男）

支部だより

東京支部

新しく衣がえをした薬友会は早くも3才となりました。この間本部役員皆様のご努力によりまして、会報も順調に発刊され、全国の会員との親近感を増すと共に、会員の資質の向上に寄与する各種計画も逐次具体化実施され、啓蒙の実をあげて居られます。一番多く恩恵にあずかる本学支部会員を代表して、厚く御礼を申上げます。

さて、東京支部の平成4年の活動でございますが、総会が2年に一度になって居りますので殆んど動いて居りません。

しいてあげれば一昨年の支部総会でご承認頂きました会則によりまして、支部の顧問を下記三氏にお願い申上げ、委嘱状の発行を致しました。(千葉大学薬友会東京支部顧問)

渡辺薬友会々長、岩城元同窓会長、池田名誉教授。

今年は支部総会の開催年に当たりますので秋頃に役員改選を含めた総会を開催し、支部の若がえりと活性化を計りたいと考えて居ります。改めてご案内致しますがその筋は特に若手並びに女性を含めた多数の方々のご参加をお願い申上げる次第です。

(東京支部長 三浦 清)

近畿支部

支部活動としては、名幹事早藤弘君(33年)の盡力で年一回(秋)の懇親会を開催し、その機会に、名簿の整理をこころがけているが、残念ながら異動がはげしく、充分な把握がむづかしい。平成4年11月27日の懇親会には、70通の案内状を出し、17名の参加があった。欠席者も近況をつたえていただいており、それぞれのご活躍ぶりをうかがうことができた。

毎回、昭和5年卒の鈴木、森島氏、10年の松坂氏は

じめ先輩格には熱心なご参加を得るが、若年者の出席が思わしくない。来年に向け、何とか堀りおこしを考えていきたい。又製薬業界も東京一極集中の傾向があり、千葉出の人材の東京への移動があい続いでおり、ますます堀りおこしをせまられている。今回は、51年の山本君の参加があり、地元の人なので今後、同窓会の中核になることを期待している。

この度の懇親会には、渡辺和夫学部長のご臨席を賜り、母校のますますの発展ぶりに意を強くした。また、昨11月3日に大先輩で近畿在住の赤堀四郎先生が逝去され、同窓生の中には先生の声咳に接したかたも多く、当夜はその思い出話がしきりであった。

二次会は33年の渡辺教授を囲んで、同クラスの懇親たちが、バブルがはじけて、人もまばらなキタの新地にくり出し、遅くまで気勢をあげた。当方(31年)も勿論、最後までご相伴にあずかった次第である。

(検見崎哲夫)

千葉支部

千葉支部は最近集まって居りませんので近く、国松支部長を中心に皆様と相談し本年度は薬友会千葉支部としての会合を催したいと存じます。千葉支部だよりに代えて、大学の所在地で皆様の思い出多い千葉市の近況を報告させて頂きます。

千葉市は昨年仙台について政令都市となり六つの区役所が出来て西千葉の薬学部は稲毛区、亥鼻の医学部は中央区となりました。今千葉駅前は市役所方面にゆくモノレールの工事で大きな鉄製の柱が何本も建てられており、又新町地区開発でデパートのビルや日本一の高層駐車場等が出来て居ります。又幕張メッセを中心とし、新都心には高いビルが次々と出来て居り4月には50階で1000室もあるプリンスホテルも開業して千葉は面目を一新して居ります。機会がありましたらぜひ千葉へお出掛け下さい。

(国友忠一)

教職員の異動(1992.5~1993.4)

○退官

鈴木 徳治 教授(生物薬剤学、1993.3.31) (名誉教授)

○講師発令

慾川 友人(生化学、学内 助手より、1992.8.1)

○助手発令

柳沢 泰宏(生物薬剤学、学内 教務職員より、1992.8.16)

川手 智彦(薬品合成化学、学内 教務職員より、1992.11.16)

○教務職員発令

額賀 路嘉(微生物薬品化学、学内より、1992.10.1)

中村 智徳(活性構造化学、学内より、1993.4.1)

○転出

熊谷 宏 講師(生化学、千葉大学アイソトープ総合センター・助教授へ、1992.8.1)

○退職

千葉 雅人 助手(生物薬剤学、カナダトロント大学薬学部へ、1992.6.30)

吹野 秀亜 助手(衛生化学、㈱環境管理センターへ、1992.12.31)

クラス通信

昭和5年卒業(五葉会)

千葉卒業後、早や63年を目前にして感無量である。私は昭和41年からクラスの一幹事として現在に至っているが、近年出席者の顔触れは殆ど変らず毎回10名内外である。毎年一回の開催で、多い年は二回のこともありこゝ数年出席者は減るばかりで、これも人生の定めといふながら寂しいことである。卒業時50数名だった会員が現在21名、生者必滅の理が身に沁みて世の無常を覚える。

(石田 新)

昭和6年卒業(八千葉会)

昭和8年3月卒業後、今年で満60年を迎えることになります。同期生の平均年齢は80才を越え、生存会員数も半数以下に減り、心細くなる昨今です。幸い10名余りの健健康人の大半は元気で仕事をしています。本年6月中旬に同窓会を東京在住者の担当で実施予定です。60年前を思い出すと感無量です。私と他5名位が汽車通学でした。京成電車通学も2人いました。他の約8割の方は自宅からと下宿生活の楽しさを満喫した事でしょう。両国駅から千葉駅まで約70分余り、列車数は蒸気機関車が1時間に1本が多くて2本なのでよく頑張ったと思います。荒川放水路を過ぎると駅と駅との中間は田畠や森、竹藪などが多くて春秋の好天日には車窓をあけ、気持ちの良い外気を吸ったものだ。私はもう少しの余命を有効に保つ可く、お互いに励まし合っている現況です。

(前納 勇)

昭和8年卒業(昭九会)

毎年少なくも年に1回は会合を持っていたのが残念ながら今年は実行できなかった。

そして、今年も亦1人のクラスメートを失った。鎌倉在住の大原君である。これでなんとかかんとか生きているのは20人となってしまった。昭和63年に1年繰り上げの55周年記念文集を川奈部君の肝煎りで作成したが、それに寄稿してくれた友の中からも既に勝野三郎、鶴岡亘、細井稔の諸氏が世を去っている。今年も会合を持とうと中山君とも相談したのだが残念ながら日程の都合がつかず中止した始末である。年を取ると人が恋しくなる。お互いに元気な顔を見せ合う会は絶

やしたくないので来年は暖かい頃を見計らって是非とも昭九会を開いて語り合おうと考えている。

(中村 見蔵)

昭和10年卒業(十千葉会)

卒後を半世紀余りも過ぎ越して来た。

それは長い長い道のりであったが、同期生の思いはすぐにも昔に戻り得る距離もある。十千葉会員は卒業時62名であったが、現在会員数は健在27名である。

会長を立崎浩君、副会長中山清君、幹事長若林元光君と、この3人を中心に親愛と团结を誇る和氣藪々の会である。来年再来年と全会員揃って、80才の大台へ登盤する。毎年1回総会の名のもとに集り、出湯につかりながら猪鼻時代に戻り、文字通り裸で互いの健在をたしかめあうのである。

誰かが「この会は最後の一兵まで続けたい」といったが、その意気や誠に壯としたい。集った全員の胸に、既に鬼籍に入られた会員の分まで20世紀を生き抜こうと励まし合うのである。去年の総会は那須高原ホテルであった。

(河島修造)

昭和11年卒業(土葉会)

平成2年8月23日渡辺君が理事長を務めている、中央区小舟町の葉業厚生年金基金会館にて、暑氣払いの最後の土葉会を開催した。

昭和11年3月卒業のときは50名の会員であったが現在は物故者24名、音信不通者4名、病気中2名で20名に案内したところ、遠く岡山の高橋君、郡山の滝田君、桐生の加藤君、高崎の高木君等が参加され欠席者は3名だけで、85%の出席を得て時の立つても忘れお互の老顔を見ながら旧交を温めました。

土葉会は本田君、山口君と私の3人で毎回企画運営して参りましたが同窓会も薬友会となり100周年記念行事にも協力し得たので土葉会としての幕を一応閉じました。然し本田君も山口君も健在なので今年は3人で相談し、お花見会でも開いて近況を語り合い命の洗たくをしたいものと考えて居ります。

(大河原五郎)

昭和12年卒業(想葉会)

ひまになったのを幸いに毎年楽しい旅行会を重ねてきました。いつも一行は15名以上(いざとなれば奥さ

吉富製薬株式会社

〒541 大阪市中央区平野町二丁目6番9号
電話 06-201-1600

わかもと製薬株式会社

常務取締役 前田 孝
(昭和35年卒)

〒103 東京都中央区日本橋宝町1-5-3
電話 03-3279-0371

んを動員して)、北海道から始めて三陸を経て、伊豆、信州、琵琶湖巡りから山陰へ、九州へ足を延ばして岩手から長崎まで賑やかに亥鼻の校歌を合唱して過ごして来ました。卒業50周年を祝ったのも、ついこの間のように思っていましたが、そろそろ疲れが出て来たようです。本人は元気でも家族に故障がみられるような場合もあり、こゝらでもう一奮発、目前の60周年を祝うために体の調整に務めたいと思っております。同窓会諸氏の御健康と御発展を祈ります。(男全精一)

昭和13年卒業(亥丘会)

同年輩の人々との話題は、健康と薬が大部分を占めます。

私「人の名前を忘れ易くて困る」

知人「忘れなくなる薬があるぞ」

私「何て薬だい」

知人「エート……」と頭に手をやって絶句している。こんな薬は買う気がしない。

私共の年齢では最近憶えた事はすぐ忘れ易い。しかし昔の事はよく憶えている。

本年5月27、28日に卒後55周年記念として、小野口君が幹事で湯河原に一泊旅行を計画している。亥丘会々員は万難を排して是非参加して欲しい。薬専時代の想出、本学の現状、将来等に話を咲かせ、終わりには千葉薬専校歌を齊唱したいものだ。(藤沢栄一)

昭和15年卒業(二六会)

紀元2600年(昭和15年)卒業を記念して二六会と名づけられた私たち同窓生は卒業当時は49名。当時は戦争が拡大の一途をたどり級友の大方が軍隊へ召集される時代でした。以来半世紀余を経た今日、この間に亡くなつた友21名を数え、亡き友の面影が瞼に浮び淋しい思いです。現在生存者は28名。輸70を越え大方は現役を引退して余生を楽しんでいます。薬局経営者は6名、管理薬剤師は3名。永年地域に根をおろし信頼されています。前同窓会長の岩城謙太郎君は同窓仲間で学生時代茶目っ氣たっぷり親分肌の江戸っ子でした。また韓国ソウル大学教授の沈さんはクラス一番の背高ノッポの紳士でした。(黒川豊三)

昭和16年12月卒業(宣葉会)

1993年は卒業52年目で、卒業時に50名のクラスメートは、27名になってしましました。そのうち26名は消息がはっきりしていますが、土浦の上野君だけが不明で、



気がかりです。一昨年には50周年クラス会を母校で開催、廣瀬、澤井両教授のご案内でキャンパス全部と薬草園、百周年記念館を見学、車で亥鼻が丘の旧校舎あとと大学病院、運動場をなつかしみ、千葉駅前の「はな車」で懇親会、12名が想い出話に花を咲かせました。原田、古山、国友の3君のお骨折りに感謝します。昨年は、新装なった新宿の「三太」でクラス会。かつて宮木高明先生がご愛用の店で、久し振りの10名の集いは、楽しいひとときでした。

毎年1回はクラス会を!という心つもりで、これからも頑張ります。皆さんお元気で。(安田英夫)

昭和17年9月卒業(翠葉会)

一昨年、卒業50周年記念クラス会は千葉でしょうと話が出て、善は急げと想い出の離散会場「並木」で開催しました。誰も欠けないうちにとの配慮からでしたが、岡村君を失いました。昨年は正味50周年で記念行事の奥の院と、山梨在住の雨宮君のきめ細かな心遣いでクラス会を10月17日石和温泉「花京」で開催し、新井、恵志、金子、斉藤、杉山、田中、富沢、戸村、中島、松家、渡辺、雨宮の12名が出席して盛大に行いました。翌朝は車で名所見物を楽しみ再会を約して散会しました。小生は心臓手術の為入院中で欠席でした。

秋には宗田君が厚生大臣表彰を受賞し、前年の雨宮君と受賞者は2名となりました。

7月には風間君が死去され、顕彰される人、逝く人、病む人卒業50周年は多端です。気分一新、秋にはクラス会を開催する予定です。(堤保二郎)

昭和18年9月卒業(丘の上)

去る7月4日に東京におきまして、平成4年度のクラス会を開催し、次の事項を決定致しました。

1. 卒業50周年の記念行事として、クラス機関紙の

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役 立崎 隆
(昭和41年卒)

千葉県佐倉市木野子158
電話 043-498-0007

山之内製薬株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町2-3-11
電話 03-3244-3000 (大代表)

「丘の上」第6号を「亡き友を偲ぶ」と題して、皆様から当時の思い出を書いて頂き、「特集号」にすることになりました。平成5年1月に完成いたし、皆様にお送りしました。

2. クラス会の名称を「丘の上」に決定致しました。
3. 記念行事の一環として、平成5年度のクラス会は、特に豪華に一泊で行きたいと考えています。

(辻 重明)

昭和20年卒業(るっぽ会)

平成4年度のクラス会実施状況：
92'1月28日～31日沖縄特別クラス会：出席者細川夫妻、金子夫妻、大谷夫妻、吉田、横田、原、田村、当山(11名)。6月6日定例クラス会、西川、大谷、和田、坂本、宮崎、当山、吉田、山田、玉木、山本、大塚、川島、横田、原(14名)。尚、大塚君はカナダに移住されました。

平成5年度のクラス会実施計画：
93'2月21日～24日台湾特別クラス会(高雄、台北)
出席予定、大谷夫妻、細川夫妻、坂本、吉田、田村、原、王(現地)、(9名)　いよいよ海外まで足を延ばすことになりました。

尚、定例クラス会(上野・ホーライ閣)は、93'6月5日(土)午後5時半から今后当分、毎年同じころ同じ場所で開催します。尚、運営費制度を92'より復活し、92'年度御欠席乍ら御送金の方10名に達しました。厚く御礼申上ます。(原 文男)

昭和23年卒業

平成3年にクラス会を三浦清さん、海野弘文さんのお世話で千葉市で開催し、その節次回の世話人として松崎弘さん、中西安治さん、吉川貴司さん、海野弘文さんと小生が決定致しましたが、開催の音頭取りをお互い遠慮した為、延び延びとなり今年の春こそはと思っております。現在世話人松崎弘さんを中心と種々計画をしておりますが候補として瀬米、銚子、房州の何れかの見物を兼ねてクラスの皆様と旧交を温めたいと思っております。(井上富夫)

昭和24年卒業

一昨年に引継いで昨年もクラス会を実施した。場所は一昨年クラス会の場所を検討したとき候補にあがった横浜中華街で本場の高級中華料理を食べて宿泊場所は鎌倉であった。知合に草正樓新館の支配人を紹介し

て貰ったとのことで、久しぶりに美味しい料理で楽しく盛上ったことであった。

翌日は好天に恵まれたので個々に古都鎌倉を散策し秋の深まりを楽しんだ。今回の幹事は吉田、青山、芭蕉で15名が集った。昨年にくらべて平日であったせいもあり若干少かったが、本年は千葉県在住者が幹事ということで趣向をこらして実施することである。

(崎山晃正)

昭和26年卒業(二六ののはな会)

私達「二六ののはな会」は、一昨年(1991年)会員が還暦を迎えたのを期して同窓会を毎年行うこととした。会場は、以前も利用したことがあり家族的雰囲気に溢れる熱海の山木旅館、期日は第2金曜日と決めた。同窓生33名、内物故者4名、一昨年出席者18名、昨年出席者12名である。今年は、4月9日(金)午後6時現地集合となっているが、本年は我々が初めて亥ノ鼻台に相知つてより45年目に当るので、29名全員の出席を期待して案内状を発送したところである。

春酣の熱海の夜に相集い、若き日の思い出を語ると共に、亡き友を偲び、懐かしき校歌を歌いたいものと思っている。

(小屋佐久次・旧姓宮下)

昭和28年卒業(千葉薬二八会)

私達は昭和24年に新制大学第1期生として入学しました。「薬学専門部」から引継がれた千葉大学薬学部の発足でした。敗戦後の学制改革で私達のクラスには各種経歴の者が集まりましたが、薬専の最後のクラスに学んだ者も10名ほどいました。いろいろと思いつける多い学生生活でした。卒業は男子39名でした。

今年は卒後40周年に当たります。10年目ごとに一泊旅行のクラス会をして来ましたが、今回は板山さんにお世話を頼み5月に甲府方面と決まりました。なお、千葉で会合を持ちたいとの声も多いので、誘い合って臨時のクラス会が実現するやも知れません。

これまで今野さんに長い間クラスの世話を万事お願いしていましたが、今後は尾中さんが引き受けてくれることになりました。お互いに元気でクラス会に顔を出しましょう。

(高橋 明)

昭和29年卒業

最近相次いで2冊の本を手にしました。

それは、故 酒井三到男氏の遺稿「生の時刻」(鎌倉書房)と、北条時彦氏の「臨床試験」(潮文社)で

トーアエイヨー株式会社

取締役社長 田 中 照 夫
(昭和25年卒)

〒104 東京都中央区京橋3-1-2
電話 03-3281-3888

武田薬品工業株式会社

〒541 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
TEL.06-204-2111(代)

す。

前者は、平成4年9月25日天に召されるまでのガンとの闘病生活の手記であり、酒井氏は新薬（抗癌剤）開発の責任者であつただけに病気の進行は手に取るよう分かっていたでしょう。心の安らぎの場として教会を選び、最後まで科学者として冷静に対処している様子が読み取れ、「これが自分だったら・・・」と心から敬服しました。

後者は、小説ではあるが偶然にも抗癌剤開発に関するもので、試験実施に絡む医師・同業他社そして自社内部の、榮光・利権・欲望や思惑を描いたもので、フィクションとは言え眞実をついている所も何れ、これではならじと著者が警鐘を鳴らしているように思われました。
(比留間和夫)

昭和31年卒業(千葉薬三一会)

三一會は、今年も盛会。平成4年5月23~24日京都に30名集まり、曼殊院をはじめ多くの寺院で、鶴亀蓬萊山を配した名園、苔の美しい庭園などを拝観し、茶室、篆書、仏道の原点などを勉強しました。松本和夫氏の特別講演「リタイヤー後が面白い？」は、人生は勉学だという「昭和ひとけた」のエネルギーを示していました。また、北野八幡に近い武田薬工の広い薬草園が見学でき、漢方の処方に従った展示と演出に感心しながら、原植物に接することができたのは幸せでした。西陣の「萬重」で懷石を味わい、来年の再会を約束して解散しました。
(星 昭夫)

昭和33年卒業

企業で活躍している人達は、そろそろ定年の声を聞く年令になりました。時々、「入院している」「手術した」などのたよりを耳にすることがあります。クラス全員、健在です。今年は、卒業して、35年目になりますので、男女合同のクラス会を、5月頃に、なつかしい千葉で開く予定です。その際、百周年記念館、私達が想像もしていない西千葉キャンパスを見たり、かつて学舎のあった亥鼻山の楽しかった雰囲気を味わい、昔日の思い出を肴に語り合いたいと思っております。
(渡辺 精)

昭和34年卒業

年に一度はクラス会を開き、楽しく語り合うことにしています。昨年は8月の盛夏、ホテルオークラで、フランス料理に舌づみをうちました。場所も味のう

ち、ワインを飲みながら、おいしくいたゞきました。北は北海道から卒業以来はじめての藤平さん、南は大阪から武田さん、総勢20人、女性は6人（全員）で、ワイワイ、ガヤガヤ、10時過ぎまで話がつきない楽しいひとときでした。…健康に感謝…

現役バリバリの人もいますが、世代交代の時期、個人差はあるものの第三の人生をいかにすごすか模索しているように思えました。

私達のクラスは、すでに9人の方が他界されました。御冥福をお祈りいたします。
(佐藤弘子)

昭和36年卒業(三六会)

私共のクラスは、卒業時には毎月どこそこで合つたりしてました。今はどうかと云うと1年か2年に1回クラス会をやっています。万年幹事の村上泰興君、高橋哲夫君には御苦労を掛けていますが、引き続きやって下さることを一同期待しております。

クラス会には、時々台湾から季功固君が来ます。彼が来ると一段とにきやかに成ります。又、会場は低廉かつデラックスということで高橋哲夫君には大分お世話になりました。今後共よろしく。
(吉田功一)

昭和37年卒業

時のたつのは早いもので、昨年私達の学年は、卒後30年となり、前号で星野さんが予告した通り、5月30日（土）に銀座の「高松」にて「卒後30年を祝う会」を開催しました。

遠くは北海道、広島、大阪からも参加して41名中28名の多数の出席者で、始めに、同級生の澤井千葉大教授と井上東大教授のお二人に記念講演をして頂き、専門外の者にも分かり易く話を下さり、久し振りに授業を受ける学生気分を味いました。その後、30年の年月が無かったかの様に、和気藹々と話に花を咲かせました。次回のクラス会には、今回にも増して大勢の方々の出席を期待しております。
(伊坂 光)

昭和40年卒業

生來の安請合戦が災いし、仕事上付き合いのある鎌滝氏から廻された御鉢を受け取る儀式と相成ったが、いざ書こうとしたらネタがないので立ち往生。最後のクラス会が開かれたのが1988年5月で5年も経過し、しかもそれに欠席しているからお手上げだ。聞けば、上野の中華レストランで開かれたその会には17名が出席し、前年10数年振りで米国から帰国した瀧尾氏、お

イワキ 株式会社 岩城製薬株式会社

代表取締役 岩城 謙太郎
(昭和15年卒)

〒103 東京都中央区日本橋本町4-8-2



三共株式会社

〒104 東京都中央区銀座2-7-12
TEL(03)3562-0411(代表)

そらくクラス会初出席の高宮氏が異彩を放ったらしい。なお次回の世話人は益子氏と加藤氏が受諾し、2、3年後に開くことを約したという。今年こそ、と誌上を借りて両氏にお願いしたい。クラス会によく出席してきた鎌浦氏、林氏、元橋夫妻が東京から遠く離れたのが寂しい。

(稻葉 実)

昭和41年卒業

平成4年は50才の時にさしかかった昭和41年卒業組にとって思い出多き年であった。6月に伊豆で初めて一泊のクラス会を開催し九州から滝川君が駆けつけるなど、22名が参加し、髪に白いものが混じる者も多かつたが、話・飲み合う間に30年前にタイムスリップした。しかし話題の中に子供の就職や大学もあり、改めて30年の月日の流れを感じられた。次に8月金子(旧姓木村)君が御家族や友人の願いも空しく、「新聞紙広げ白つめ草の見舞い」という句を残して、白血病で天国に召された。昭和43年事故で亡くなった岸君といい金子君といいクラスの健康優良児であったのに…。

人生50年は遠い昔の言葉であり、稻毛→西千葉→亥鼻と3つのキャンパスに学ぶ事の出来た昭和41年組共通の願いは唯1つ、お互に健康に留意して、今後何回でも何年でもクラス会で顔を合わせる事が出来、千葉薬時代の青春を語り合うと共に、孫の自慢もしたいものである。

(和田泰介)

昭和46年卒業

昭和は遠くなりにけり。初めて平民から皇太子妃が選ばれた事件に興奮した世代が、再び「平民から皇太子妃選定」の報に触れて、時間の流れをしみじみ想う。

昭和46年卒業から22年を経て、昨年、88名の同期から母校の教授を生んだ。他にも薬科大学の先生1名、国公立研究所他の公務員9名、製薬会社研究所11名、開発関係9名、病院薬剤師6名、薬局11名、海外在住3名等。「主婦25名」の中にも、子育てが一段落し、薬剤師の職能を有効に行使している人も増えている筈である。それぞれに重要な役割を担う世代となっていく。同窓会も毎年という訳にはいかなくなつたが、多忙の中、やり繕りをつけた幹事が、種を見つけてはタイミングよく開催して、20数年前のコンバの世界を呼び戻してくれる。前回は卒後20年を祝った。今年当たりの種は何になるだろうか。薬学科・製薬化学科各1名の幹事さんが協力して、多忙の中、開催の「種」を模索してくれている(ハズである)。

(下川正和)

昭和47年卒業

昨年、卒後20周年目の同期会を第1回千葉大学薬友会生涯教育セミナーに合わせ、6月13日に地元船橋で開催した。出席者の何名かはセミナーに参加され、そのセミナーの成功にいくらかでも貢献したようである。

同期会への出席者は、女性17名、男性5名と相変わらずの女性上位で、現在それぞれの場での活躍もそれを反映している(?)ようであった。予定の時間も過ぎ、引続き同じ場所で2次会に移ったが、話がはずみほぼ全員がそのまま参加するという盛況ぶりであった。

今年も6月5日東京で開かれる第2回生涯教育セミナー終了後、遠藤氏(ダイセル)を幹事に集まる予定である。

(石川 勉)

昭和54年卒業

早いもので卒業後14年が経ちました。この間薬学部にも益々の発展と変遷があり、私たちのお世話になった教授の先生方もその3/4が退官されました。クラス会は3回目が1985年に東京で開催され、同期の約半数が出席して盛会でした。それ以来学年を挙げてのクラス会は開かれていませんが、小規模な集いが何度かありました。年齢も30半ばを過ぎ、それぞれが各方面で中堅の働き盛りにあります。また成長期のお子さんを持つ方も多くなりました。次回のクラス会には、そうした近況を肴に旧交を温めることができればと思っております。

(塚本喜久雄)

昭和55年卒業

クラス通信の原稿といわれて困りました。前回の朝比奈真由美さんも苦労したのかな?確かに、7年前のクラス会以来、76Pとか55年卒で活動していませんよね。その後、昨年(1992年)はクラス会が有ると言う噂も消えたようだ。文章を書くのは相変わらず苦手ですから、皆様に電話を掛けまくり、情報を集めようとか、誰か他の方に依頼しようかと悩みました。でも結局、これから誰が書くにしても1人で情報収集するのでは限界もあるし、この場でお願いするのが好ましいと思いました。55年卒の皆様、是非、近況&感想をお知らせください!

(懸川友人)

昭和63年卒業

昨年開かれたクラス会は、学生時代クラス担任でした廣瀬教授をお招きし、楽しい一時を過ごしました。



株式会社 龍角散

代表取締役社長 藤井 康男
(昭和29年卒)

〒101 東京都千代田区東神田2-5-12
電話 03-3866-1177 (代表)

日本メジフィジックス株式会社

〒102 東京都千代田区九段北1-13-5
TEL 03-3234-2910

先生は私達が入学してから卒業するまでの写真をアルバムに収め、このクラス会のために持ってきてくださいました。入学当時の幼顔にみな驚いたり赤面したり、また学生の頃には先生に話すことが出来なかった話題を持ちだし、あれやこれやと話に花を咲かせました。そういう私達も職場や社会でそれぞれが活躍し、責任ある仕事を持っているようです。これからも、心のより所となるようなクラス会を開いていきたいと思っております。

(石井伊都子)

平成2年卒業

大学院進学組も昨春ほとんどが卒業、社会人となり、大学には数人のみとなりました。千葉在住の私としては淋しい限りです。そんな訳で転居者が続出したため新たなる名簿を昨夏作成しました。須田、ご苦労様。それからお礼状を下さった方々、有難うございました。この場を借りてお礼致します。出来事としては第2回同窓会が昨年の6月6日に開かれ50名の参加者があり

ました。それと、昨年の4月12日に相原さんが御結婚されました。おめでとうございます。そんなところでどうぞ。次回同窓会は年末を予定（本当は全くの未定）しています。何でも噂の領域では何人かの方が結婚されるという話ですがこれについては次回ということと、これにておしまい。

(浅田安則)

平成4年卒業

私たちは昨春卒業したばかりの最も新しい卒業生です。私たちの半分近くはまだ大学院に残っていますが、昨年秋に1回目の同窓会を開き、久しぶりに同級生のほとんど全員が再会しました。就職した人達は、新人研修も終わり、ようやく仕事にも少しあはれ、社会人生活を謳歌しているようでした。院生は現在就職活動の真最中ですが不況のため今年はなかなか厳しいようです。今年の夏には2回目の同窓会を開く予定ですがその頃には同級生の間にも先輩、後輩関係ができるかもしれません。

(富永裕慎、木村友美)

1993年度 美学部入学者出身高校一覧

(入学者85名、男24名、女61名)

6名	県立船橋(千葉)
5名	両国(東京)
4名	東葛飾(千葉)
3名	開成(東京)、木更津(千葉)
2名	水戸第一(茨城)、県立浦和(埼玉)、桜蔭(東京)、八王子東(東京)、県立千葉(千葉)、佐原(千葉)、東邦大学付属東邦(千葉)、桐蔭学園(神奈川)、桜原(静岡)、上田(長野)
1名	函館中部(北海道)、湯沢(秋田)、浦和明の星女子(埼玉)、川越(埼玉)、熊谷女子(埼玉)、城西大学付属川越(埼玉)、蕨(埼玉)、お茶の水女子大学附属(東京)、国立(東京)、国際基督教大学附属(東京)、白百合学園(東京)、私立城北(東京)、杉並(東京)、筑波大学附属(東京)、筑波大学附属駒場(東京)、豊島園女子学園(東京)、戸山(東京)、白鷗(東京)、日比谷(東京)、武蔵野北(東京)、立教女学院(東京)、市立千葉(千葉)、国府台(千葉)、佐倉(千葉)、千葉東(千葉)、成東(千葉)、横浜雙葉(神奈川)、高田(新潟)、長岡(新潟)、新潟(新潟)、砺波(富山)、若狭(福井)、並山(静岡)、富士(静岡)、焼津中央(静岡)、諏訪清陵(長野)、長野(長野)、半田(愛知)、西尾(愛知)、岐阜北(岐阜)、浜田(島根)、安吉市(広島)、広島大学附属(広島)、大分雄城台(大分)

1992年度 卒業生の進路

会社／進路	4年生		大学院生		計
	男	女	男	女	
選考者(千葉大学大学院)	21	9	5	0	35
萬有製薬	0	3	2	1	6
山之内製薬	0	2	3	1	6
日本グラクソ	0	4	0	0	4
第一製薬	0	1	2	0	3
大正製薬	0	3	0	0	3
持田製薬	0	2	1	0	3
エーザイ	0	0	2	0	2
三共	0	1	0	1	2

★1名就職先

旭硝子、味の素、アマシャムジャパン、エス・アール・エル、NECソフトウェア、大塚製薬、救心製薬、日本新薬、キリンビール、グレラン製薬、厚生省、興和、佐藤製薬、サントリー、塩野義製薬、スミスクライ・ビーチャム製薬、生体科学研究所、セイミケミカル、タイ国立薬学研究所、台糖ファイザー、大鵬製品工業、東京女子医科大学、東京大学研修生、栃木県職員、鳥居製品、長野県職員、新潟県職員、日清製粉、日本ケミファ、日本ロシュ、農林水産省、バイエル薬品、P&G、ファルミタリア カルロエルバ、富士レビオ、ヘキストジャパン、三井東圧化学、三菱油化ビーシーエル、雪印乳業、吉富製薬、ライオン、ローヌ・ブーラン・ローラー、ワイス・エーザイ

会社／進路	4年生		大学院生		計
	男	女	男	女	
サンド製品	0	0	1	1	2
武田製品工業	0	0	2	0	2
田辺製薬	0	0	2	0	2
千葉県職員	0	1	1	0	2
千葉市職員	0	2	0	0	2
帝国臘器製薬	0	2	0	0	2
帝人	0	1	1	0	2
日本化薬	0	1	0	1	2
明治製薬	0	0	1	1	2

第2回千葉大学薬友会生涯教育セミナー開催のお知らせ

昨年に引き続き、第2回セミナーを下記のように開催したいと存じます。本学部の卒業生以外の方の参加も歓迎しておりますので、お近くの方をお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

1) メインテーマ『医薬品情報の創出と伝達』

『薬』は製薬企業等の研究開発の場から生み出されますが、このとき化学物質としての薬と同時に『医薬品』としての情報が創り出されます。この情報が次々に伝達され、患者へと渡ります。企業にあっても、医療現場にあっても、薬剤師は正にこの情報伝達の重要な担い手であります。今回は、この『薬』の情報の出発点、あるいは途中の伝達の仕組みや問題点等について、医薬品情報の創出・伝達に携わっておられる様々な立場から、講師の先生方に御講演いただき、医薬品情報を通じての『薬』の役割をあらためて問い合わせてみたいと思います。

2) 演題と講師

- ・はじめに 山崎幹夫（千葉大薬学部）
- ・医療現場のニーズに応える医薬品情報の活用とは 武立 啓子（東京女子医大病院薬品情報室）
- ・臨床医の立場から
　　—いま成人病治療に求められる医薬品情報— 片山 茂裕（埼玉医大第4内科）
- ・患者さんに役立つ医薬品情報を届けるために
　　—世界をみつめて— 岡田 清三郎（第一製薬学術情報部）
- ・医薬品情報の扱い方 未定（厚生省薬務局）

各40分の講演（質疑応答を含む）後、パネルディスカッションを行います。



第1回生涯教育セミナー（1992. 6. 13）

3) 日時：平成5年6月5日（土）午後1時～5時

引き続き、5時半よりミキサー（懇親会）を開きます。

4) 場所：野口英世記念館（東京、JR千駄谷駅より徒歩7分）

〒160 新宿区大京町26 TEL 03-3357-0742

5) 参加予約の方法：同封の振込み用紙に、参加者氏名、住所、卒業年次、職業を御記入の上、下記の郵便振替口座に参加費をお振り込み下さい。

東京5-551796、千葉大学薬友会

参加予約締切：平成5年5月21日

6) 参加費 2000円（予約時） 2500円（当日）

7) ミキサー参加費 3000円（予約時） 3500円（当日）

8) 連絡先

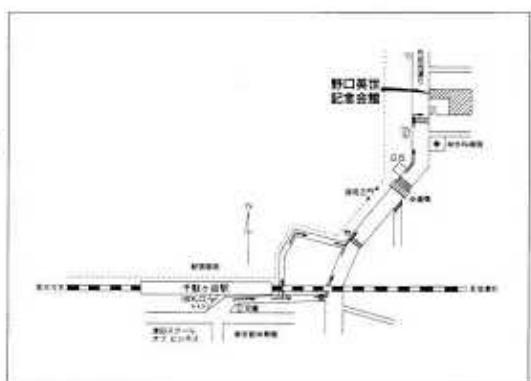
〒263 千葉市稻毛区弥生町1-33

TEL 043-251-1111 内線2720

FAX 043-255-1574

千葉大学薬友会事業委員会

（担当 篠川節子）



会員だより



大原 正巳
(昭和39年卒業)

千葉について 昭和35年入学の頃にはまだ稲毛海岸では潮干狩が出来、旧千葉駅には0番線があり、薬学部は亥鼻地区にあって、その倉庫然とした姿が印象的でした。

稲毛で教養課程2年を終え、すでに矢作地区に移転していた学部では実におおらかに学生生活を満喫しました。その間に今のが内との出会いがあり、あのはな山岳会の山行、空手部の合宿、昼休みのダンスの練習と、よくもまあこんなにと思えるほど雑学に専念し、それでもなんとか卒業させてもらいました。

娘が薬学部にお世話になることになり、20数年ぶりに千葉を訪れて、母校の充実ぶりと千葉市のあまりの変貌にただ日々驚いている次第です。

最近想うこと 昨年医療法が改正され、今後の医療の方向が定められ、その中で薬剤師の医療における位置づけがなされました。医薬分業は着実に進展していますが、多方面に展開している薬剤師の機能と業務についてはまだまだ確定しているわけではなく、今後の息の長い努力が必要だと考えられます。

昨年薬友会主催の生涯教育セミナーが開催され盛況であったとのことですが、このような行事が定着し発展することが、従来となく疎遠であった薬学教育と薬剤師業務の相互理解の場となり、能力の向上と業務の拡大をとうして、薬学と薬剤師の存在が一層社会に認められるようになることを切望しています。



「ワインナワルツの踊りに魅せられて」

藤沢 栄一 (昭和13年卒業)

平成元年秋、千葉大学薬学部100周年記念事業が終了した頃、或るダンスパーティがあり、そこでワインナワルツを踊る手ほどきを受けた。これに非常に興味を覚えた私はワインナワルツを本格的に教えて貰われる教習所を東京で2ヶ所探し当て、日曜日を1年間つぶして勉強した。

又寅さん映画「心の旅路」でのウイーンが気に入り、ワルツの本場ウイーンに行き、ワインナワルツの特別講習を受ける決心をした。そのためにウイーンはドイツ語圏なので、ドイツ語を1年間テレビのドイツ語講座、テープのドイツ旅行会話集に耳を傾けた。かくして平成3年12月1週間ウイーンに旅行した。私のドイツ語は相手に通じたが、先方の返事が中々判らず苦労した。

エルマイヤーダンス学校を漸く探し当てエルマイヤー教授に面会し、ダンスは私の最大の趣味であると告げると非常に喜ばれ熱心に指導してくれ50分間特別講習を受けた。ワインナワルツは古典ダンスで普通のワルツの倍の速さで廻るので、汗びっしょりになったが、助手のお嬢さんと踊っている時は天に昇るような楽しさと満足を覚えた。そしてその時頂いた修了証書はいゝ記念になった。

今私の計画しているのは、ドイツ語で雑談が出来るように勉強し、80才までに再びウイーンに赴き、ダンスパーティで現地の人と心行く迄ダンスを踊って来る事である。



“アメリカの大学生活”
斎藤 直樹 (昭和53年卒業)

現在、インディアナ大学化学科、Paul.A.Grieco 教授のもとに postdoctoral fellow として留学しています。Dr.Grieco は世界的にも有名な有機合成化学者ですが、一方で、自ら牧場を経営し数百頭の肉牛の世話をしています。さらに化学科の chairman も兼任しておりとても活動的な人です。研究室内はスペースが広く、とてもきれいに整頓され明るいのですが、非常に使いにくい器具が多くこの国の無器用さを感じます。学生は自主的に行動し、自分自身の大学生活を非常に大切にしています。大学院生はとても研究熱心であるとともに常に、自分のアイディアを出しながら議論しています。学生の進路については、(この国の大學生になるためには tenure を取る事が必要であるが、現在とても難しいため) ほとんどの学生が就職を希望していますが、かなりきびしいようです。そこで学生達は毎週開かれるインタビュー(面接試験)に参加して積極的に自分をアピールしています。

日本の大学では“助手”は研究、教育のほかに雑務も多くかなりハードな職種ですが、こちらには助手はいません。これらの仕事は秘書、大学院生、ポストドクに完全に振り分けられています。このような完全分業体制はこの国の社会の縮図であるような気がします。(薬剤師-残念ながらこの国での評価はあまり高くないですがーは完全に独立した職種であるように…) なお、アメリカの大学については Anthony T.Tu 氏の“アメリカでも一流校は狹き門”(化学同人)に詳しく書かれていますので興味のある方は、ぜひ御一読ください。

薬友会のページ

薬友会組織に衣替えして3年になります。皆様の御支援により順調な発展を遂げております。昨年(1992年)の事業としましては、薬友会報第2号を発行し、5月上旬に皆様のお手元に届いたことと思います。6月13日には薬友会主催の第1回生涯教育セミナーが開催されました。大変に画期的な事業のスタートであり、会場の薬学部記念講堂は大盛況となりました。230名の参加申込者があり、192名が出席されました。20~50才代が幅広く参加され、60才代が9名、70才代が5名で、80才代の方も1名おられました。その際のアンケート調査の結果を少し紹介致しますと、参加者の職業別では病院薬剤師33名、開局者25名、製薬会社勤務者25名のほか、現在は子育て中の主婦(薬剤師)もかなりおられるようでした。今回の企画に対して、大変良いので今後とも継続してほしいとの評価(回答145名中の137名)をいただきましたが、時間が短い、講演要旨がほしい、空調のある会場にしてほしいなどのご希望もあり、担当者側では次回(本年6月5日)開催に向けて、さらに種々の点で改善を行うように努力いたします。

6月27日に薬友会総会が開催され、渡辺和夫会長の挨拶・学部近況報告の後に、各事業報告並びに計画が述べられ承認されました。また役員の選出が行われました。事業の発展にともない、事業委員会の委員が5名から8名、そして会報委員会の委員が8名から9名に増員されました。総会終了後に懇親会が開催され無事終了致しました。

このような活動が続けられますのも、平成2年に薬友会となって皆様へお願いをはじめて以来、多数の皆様から御寄付を戴き、資金面で多少とも融通がきくようになつたお蔭であります。現在までに、208名からの御寄付の総額が2,655,000円となっており、各事業の支援金として使わせていただいております。厚く御礼申し上げます。

さて、平成3年版の「会員名簿」作成では飛躍的な整備が行われましたが、索引の整備が不十分でした(名簿委員を中心とした薬友会委員全員で調べましたが)。この原因は、氏名に正確なフリガナづけが無かったことによります。不十分な点をお詫び致しますとともに、次回は万全を期したいと思います。皆様におかれましては、各自のところをご覧いただき、必要な訂正箇所があれば至急名簿係へご連絡願います。また、住所変更等のある方で、未連絡の方は必ず連絡を願います。特に平成3年版記載以降、卒業後間もない方は、住所変更等の迅速な連絡にご留意願います。(平成3年版「会員名簿」の後部に綴じ込みの異動通知連絡カードがあります。)

本学部の創立100周年を記念して、同窓生と教職員が協力し、また学内外からの後援を得て完成致しました百周年記念館の使用状況についてご報告させていただきます。本記念館は薬学部3号館の南に、薬草園に隣接し、2階建てのすばらしいたたずまいを見せてています。1階の主要部分を占める医薬品展示室は、代表

的な常用医薬品や歴史的に価値の高い医薬品を体系的に整理して展示するとともに、100社にのぼる医薬品の添付文書集や解説書を備えるまでになりました。さらに、本学部100年の歴史を物語る資料等の展示も行っています。2階は医薬情報資料室で、薬学・医学分野のビデオテープ、ビデオディスク等を備えるとともに、最新鋭の各種音響映像装置が設置されています。

さて、本学部はカナダのアルバータ大学薬学部並びにタイのチュラロンコン大学薬学部とそれぞれ学部間の交流協定を結んでおり、近年益々盛んになっております国際交流で外国から来られる方が増えてきました。本記念館は、これらの方々を含む多くの方々を迎えて講演会の会場となり、セミナー会場となり、種々の集会場ともなっております。また、卒業生の方々のクラス会の場ともなっております。具体的に述べますと、1990年1月から1992年12月までの3ヶ月の使用回数が160回となりました。国際交流セミナー・外国人講演会を含めて講演会・セミナーの回数が61回をはじめ、卒業論文発表会、大学院講義、学部学生講義、実習の打ち合せ、学生に対するアイソトープ使用者教育訓練や実験動物の使用・管理講習会などビデオ等を用いた活動の場として、大変有効に利用されております。また、1991年3月16日の昭和31年卒業生同級会にはじまり、本年の4月には昭和28年卒業生同級会が予定されているなど、クラス会開催にも度々利用されております。さらに有効利用していただきたいと思います。

各種委員会役員名簿

総務委員会	○坂井和男、上野光一、池上文雄 村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、 野中浦雄(S42)
財務委員会	○上野光一、坂井和男、池上文雄 村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、 野中浦雄(S42)、藤沢栄一(S13) アドバイザー
名簿委員会	○池上文雄、坂井和男、上野光一 村上泰興(S36)、立崎 隆(S41)、 野中浦雄(S42)
事業委員会	○山崎幹夫、澤井哲夫、笈川節子 石川 勉、戸井田敏彦、齊藤和季 大川幸子(S32)、山田和見(S32)
会報委員会	次頁参照 (○:委員長)

薬友会会員名簿(平成3年版)

一部 5,000円

終身会員の方へは既に発送しております。
終身会員以外の方は名簿係へお申込み下さい。
薬友会宛振込先 郵便振替
東京 5-551796 千葉大学薬友会
千葉銀行西千葉支店
普通預金口座 2232357 千葉大学薬友会

忘れ得ぬ思い出



御高齢とはいって、赤堀四郎先生が亡くなられた事は私にとって大きな心の支えを失った想いが日増しに強くなるのに自分でも驚いている。只1回の千葉大での集中講義に人生はじめての感動を覚え、当時指導教官だった宮木高明先生におねがいし大阪大学理学部大学院へ進学できてから私の人生は一変した。

大阪での5年間は私の人生にとって最も充実した研究生活だった。その事が遠因になり、㈱ヤトロンの創業と今日の龍角散の発展につながったことを想えば先生に受けた御恩は何物にも変え難い。先生の学問的業績の偉しさは言う迄もないが、私が一番大きな影響を受けたのは先生のたぐいまれなお人柄であった。常に思索することを止めない先生、その謙虚なお人柄、奥底の知れない哲学、学者としてのみならずマネジメントとしての偉大な能力、夢とロマン、温かいお人柄、しかし私にとっては一番こわいお人だった。

先生の語録を少しく引用したい。

「芳香族アミノ酸に必ず1箇はあるメチレン基が気になる。何かアミノ酸の起源に関係があるかもしれない。」「石油は今でも地殻の中でふえているのじゃないか。石油の起源には、疑問があるね。」「光学活性こそ生命の属性でここに大きな謎がある。」「酵素分子は自分で運動しているのかも知れない。」「酵素反応とはアクティベーションエナジーの山にトンネルを開けることなんだ。」「心をきれいに手を汚せ。」「泰山不動白雲去来」「雪埋梅花 不能埋香」

忘れないのは20年前、ヤトロンの中研を御案内した時、「藤井君、これはポビュラーバイオケミストリーだね」とあの忘れない素晴らしい笑顔でおっしゃった事である。合掌

㈱ヤトロン、龍角散社長 理学博士
昭和29年卒業 藤井 康男



村上先生を偲ぶ

村上增雄先生は大正11年3月に千葉医科大学薬学専門部を卒業されましたが、一年先輩である赤堀先生と共に我々同窓生にとっては榮誉ある大先輩であります。

先生は千葉卒業後、東北大学理学部化学科に入学され、15年に卒業後大学院を経て昭和6年には理学博士になられ、理化学研究所の研究員のかたわら、昭和12年には母校千葉の講師となられました。先生の講義は実際にユニークで楽しく受講し大変啓発されたことを憶えています。当時は戦時中でもありましたので、私は卒業すれば戦場にかり出されるのだという手前勝手な言い訳もあって、勉強など全くお留守であります。

さて、卒業してみると、これからどうするのかということになり、心臓にも先生のお宅に単独訪問し御相談申し上げた処、先生はそれなら私の処に来いと言われ、驚きかつ喜んで理化学研究所に入所することになりました。今思えば大変な厚かましさでした。

先生は昭和8年実験中にケガをされ、右手は包帯をされており、実験は左手と右手の親指でされるといった不自由な状態がありました。しかし、テニスが大好きで理研のテニスコートで先生のお相手をしたことも懐かしい思い出です。また、先生は碁が大変お好きで赤堀先生とは好敵手の間柄で赤堀先生が上京の度に手合わせしておられたようで、棋力は初段ぐらいではなかったかと思います。

先生は晩年、藤沢市に住んでおられましたので、私は時折お訪ねし、碁のお相手をしたりしてお話しに参上していました。先生は心のやさしい大変おおらかな方で、いつも楽しくお話しできたことを憶えています。

先生の御冥福を祈ってお別れの言葉いたします。

鐘紡顧問 日本エスティシャン協会理事
昭和14年卒業 吉田 酢

編集後記

第3号で早くも「16ページの薬友会報では書ききれない」との声が編集委員会では出ています。本当に会員に届けられるものが出来るのかと不安が一杯だった2年前の創刊当時がウソのようです。会員の皆様にはお忙しい中、原稿を書いて頂いたり、広告の件で御助力頂いたりとお世話下さり編集委員一同感謝しております。第4号からは新しい編集スタッフにより会報が作られる予定です。フレッシュなアイデアで薬友会報をさらに盛りたてて下さることを期待しています。

会報委員 山本恵司（委員長） 上野幸夫（S33） 角田範子（S52） 柏木敬子 加藤文男（S47）
成松銀雄 高山廣光 中辻晶子（院生） 増本真理（院生）

発行 千葉大学薬友会 会報委員会

〒283 千葉市稻毛区弥生町1-33
TEL 043 (251) 1111 FAX 043 (255) 1574